

令和6年度
授業シラバス
【2年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

北海道函館西高等学校 論理国語 年間指導計画(2単位)				A 30 時間		B 40 時間		C 70 時間														
				単 元 名																		
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
科目の目標				者の評論を読み、表現の的確に注意して筆	資料を整理し、テーマを吟味しよ	評論を読み、根拠を確かめながら筆者の主張を捉えよう	▽論理の力を鍛えよう・つなげる力	現代の人間関係の在り方を論じた複数の評論を読み、自分の考えを深めよう	仮説を立てて検証しよう	学術的な概念を扱った評論を読み、その内容を的確に捉えよう	文章を読み比べるために	▽要約する力を身につけよう	構成・展開・要旨を的確に理解しよう	絵画や地図を参考にして評論を読み、	社会と人間の在り方を主題とする評論を読み、価値観を照らし合わせて考えよう	社会的な話題に関する文章を読み短い文章を書こう	引用の方を学ぼう	▽論証する力を身につけよう	語彙を増やそう	言葉のトレーニングに取り組もう	図表を読み解こう	今まで読んだ評論に関連した資料を探し、自分のテーマを究めよう
(1) 知識及び技能				実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。																		
(2) 思考力、表現力、判断力等				論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																		
(3) 学びに向かう力、人間性等				言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																		
学年	第2年次	担当	長澤																			
使用教科書				精選論理国語(東京書籍)																		
指導領域				A 書くこと																		
授業時数の計				30 時間																		
指導領域				B 読むこと																		
授業時数の計				40 時間																		
指導事項																						
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。			○							○		○							
			論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の意を推し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。				○		○		○	○										
			文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。	○		○		○			○	○										
			文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。	○		○		○				○										
			主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。		○			○														
			情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。		○																	
			推論の仕方について理解を深め使うこと。				○															
			新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。				○				○	○										
			思考力、表現力、判断力等	A	ア	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。		○		○							○					
						情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。		○						○	○			○				
立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。						○									○							
多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。		○					○					○	○		○							
種々の文の表現の仕方や段落の構成を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。						○		○				○	○									
文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。									○			○	○		○							
文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握すること。	○					○		○			○				○							
文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。											○		○		○	○						
主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。										○					○							
読むこと	B	ウ				文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。	○	○				○										
			関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。				○				○											
			人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。	○				○				○										
			設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。		○		○		○	○			○									
			教 材 名																			
			日本人の美意識(参考：富嶽百景)																			
			消費されるスポーツ																			
			新聞など																			
			自己アピール																			
			評論キーワード																			
地方都市を考える																						
個人テーマ																						
リスクとリスク社会																						
メディアの変容・分人とは何か																						
リスクとリスク社会																						
メディアの変容・分人とは何か																						
つなげる力																						
相手依存の自己規定																						
裁判員制度について																						
ミロのヴィーナス																						

北海道函館西高等学校 古典探究 年間指導計画(3単位)				A 105 時間		B 時間		C 時間		計 105 時間																
科目の目標				単 元 名																						
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
(1) 知識及び技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			説話を通して話の面白さを味わおう	うた・物語・随筆・生活の場面を味わい、自分たちの生活と比べてみよう	随筆・生活の場面を味わい、自分たちの生活と比べてみよう	作者のおかれた境遇や背景を学び、人物像を描こう	文学・歴史・文化として理解を深めよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう	漢文・私生活・日記・書簡・文章の読み比べよう											
(2) 思考力、表現力、判断力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																									
(3) 学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりあう態度を養う。																									
学年	第2年次	担当	秋山幸一・天満谷貴之																							
使用教科書	精選古典探究(大修館)																									
指導領域	A 読むこと			6	6	6	4	2	6	8	2	4	4	6	4											
授業時数の計	105 時間			6	6	6	4	2	6	8	2	4	4	6	4											
指導事項																										
知識及び技能	(1)	ア	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○		○		○		○				○	○		○									
		イ	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。			○					○			○												
		ウ	古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。					○				○			○											
		エ	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。	○			○		○			○			○	○										
	(2)	ア	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。		○								○			○										
		イ	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。	○	○			○			○			○			○									
		ウ	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。		○				○						○											
		エ	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。				○			○																
		ア	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。	○				○	○			○	○	○	○		○									
		イ	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。				○				○		○			○										
思考力、判断力、表現力等	A 読むこと	ウ	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。	○		○		○					○	○												
		エ	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。					○			○					○										
		オ	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。				○				○	○			○											
		カ	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。		○	○			○			○			○											
		キ	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。				○		○			○	○			○	○									
		ク	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。			○					○	○														
						教 材 名																				
						検説話	徒然草「花は盛りに」・玉勝間	枕草子「すさまじきもの」	中宮定子と清少納言	紫式部日記・和泉式部と清少納言	大鏡「道真左遷」「競べ弓」	日本書紀	十六夜日記・あづま下り	漢文と日本人・故事成語	孟子「人に忍びざるの心」	古今和歌集・仮名序	土佐日記・阿倍仲麻呂	安元の大火・今昔物語集	古典を探究	史記・鴻門の会	光源氏の誕生・藤壺	源氏物語	更級日記・源氏の五十余巻	源氏物語・若紫	忠臣蔵の都落ち・義仲の最期	平家物語

2 年次	選択 2 2				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴	地理探究	2	選択授業	船水 紀明	
教科書	地理探究（二宮書店）				
補助教材					
目標	科目	社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域・地域の特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる。
評価の方法	・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1編現代社会の系統地理的考察 第1章自然環境 第2章資源と産業	1 地形 2 気候と生態系 3 世界各地の自然と生活 4 日本の自然環境と防災 5 地球環境問題 1 農林水産業	◎	◎	○	・場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
6-8	12	第2章資源と産業 第3章人・モノ・金のつながり	2 資源・エネルギー 3 工業 4 第3次産業 1 交通・通信 2 貿易・観光	◎	◎	○	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関する問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
9-11	22	第4章人口、村落・都市 第5章文化と国家	1 人口 2 村落・都市 1 生活文化と言語・宗教	○	◎	◎	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
12-3	20	第5章文化と国家	2 国家とその領域	◎	◎	○	・場所や空間的相互依存作用などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。
合計	70						

2 年次	選択 2 2				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴	日本史探究	2	選択授業	黒澤 剛	
教科書	詳説 日本史				
補助教材	最新 日本史図表				
目標	科目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる
評価の観点	知識・技能	我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか		主体的に学習に取り組む態度	
	思考・判断・表現	我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか		主体的に学習に取り組む態度	
評価の方法	授業態度 ワークシートの記述内容 小テスト 定期考査の問題	授業態度 グループワーク、発表の状況 ワークシートの記述内容 定期考査の問題		授業態度 ワークシート等の提出状況 定期考査の問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	12	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章 中世社会の成立 第6章 武家社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ島	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的意義について考察することができる。 ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる。 ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる。 ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ島と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	20	第6章 武家社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的意義を理解し、それ以降戦乱が全国各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		選択 2 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		世界史探究	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳説 世界史 (山川出版社)				
補助教材		ニューステージ世界史 (浜島書店)				
目標	科目	1 過去から現在までの変化の道筋を知ること、現在直面している世界の様相、社会の様相がどのようにしてできあがってきたのかを理解する。 2 歴史の中で生きた人たちの生き方、考え方を検討し、自分の生き方、考え方を豊かにしていく。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようにする。		歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1部 諸地域世界の形成	・4大文明～オリエント（エジプト・メソポタミア） インド 中国	◎	○	○	・4大文明の地理上の位置を理解できる。 ・4大文明の特徴（統治体制・文字・暦・農耕・都市国家・他地域との関係性など）を理解できる。 ・文明の生み出した事象に違いが生じた理由について説明できる。 ・統治体制や国の興亡に関して、なぜそうなったのかを説明できる。
6-8	12	第2部 諸地域世界の交流	・イスラム世界 ・ヨーロッパ世界 ・モンゴル	◎	○	○	・4大文明の地理上の位置を理解できる。 ・文明の接触における争いに関して理解する。 ・統治体制や国の興亡について、なぜそうなったかを説明できる。 ・4大文明の特徴（統治体制・文字・暦・農耕・都市国家・他地域との関係性など）を理解できる。 ・文明の生み出した事象に違いが生じた理由について説明できる。 ・世界的な宗教について、成立の過程・発展を理解できる。 ・イスラム帝国の特徴について理解できる。 ・中世ヨーロッパ世界の成立・国々の興亡について理解できる。
		前期期末考査					
9-11	22	第3部 一体化に向かう世界	・近世ヨーロッパと大航海時代 ・ルネサンス ・宗教改革	◎	○	○	・大航海時代について、地理上で理解できる。 ・大航海時代について、その影響について説明できる。 ・ルネサンスについて理解できる。 ・ルネサンスの影響について説明できる。 ・宗教改革について理解できる。 ・宗教改革について、その影響について説明できる。
		後期中間考査					
12-3	20	第3部 一体化に向かう世界	・主権国家体制 ・市民革命 ・中央ユーラシア世界 ・朝鮮半島と日本	◎	○	○	・主権国家体制の成り立ちについて、国別に理解できる。 ・各国の対立関係について理解できる。 ・市民革命について理解できる。 ・主権国家体制と市民革命の関係性について理解できる。 ・中央ユーラシア世界における騎馬遊牧民の特徴について理解できる。 ・朝鮮半島と日本の関係性について理解できる。
		後期期末考査					

合計 70

2 年次	必修				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
公民	公共	2	学級単位	高橋英典・吉田修平	
教科書	詳述公共（実教出版）				
補助教材	ズームアップ公共資料（実教出版）				
目標	科目	1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、今後必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能） 2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。（思考・判断・表現） 3. 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・人間は社会的な存在であること、伝統や文化を理解し、他者の価値観を尊重できることを理解している。 ・自分自身が、公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。		・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
評価の方法	■評価の方法 小テスト、定期考査、模擬演習ノートなど		■評価の方法 定期考査、レポート、ノート、模擬演習ノートなど		■評価の方法 活動の様子を観察、レポート、口頭発表など

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第4章 民主国家における基本原則 1. 人権保障の発展と民主政治の成立 2. 国民主権と民主政治の発展	・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。 ・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。	◎	◎	○	○多数決の長所と短所について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ○議院内閣制と大統領制について、多面的に考察し、適切に表現している。 ○アメリカ独立宣言で示されている権利を読み取り、日本国憲法との関連について多面的に考察している。 ○多数決の長所と短所について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ○議院内閣制と大統領制について、多面的に考察し、適切に表現している。
6-8	12	第1章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義とわが国 3. 基本的人権の保障の安全 4. 人権の広がり	・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・憲法の最高法規性について理解する。 ・日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・人権に関する現実社会の課題について理解する。 ・新しい人権について理解する。（公共の福祉）	◎	◎	○	○議員立法と政府立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。 ○内閣総理大臣の権限について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○違憲審査会のあり方について、協働的に考察し適切に表現している。 ○裁判員制度について、多面的に考察し、適切に表現している。 ○都市と地方の格差について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○住民投票について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○地方議会の課題について、多面的に考察している。 ○地域社会の課題とその解決策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。
前期期末考査							
9-11	22	第2章 日本の政治機構と政治参加 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所 3. 地方自治 4. 選挙と政党	・国会と内閣の構成について理解する。 ・司法権の独立や裁判について理解する。 ・裁判員制度や検察審査会について理解する。 ・官主導社会とその課題について理解する。 ・地方自治の本旨について理解し、戦後の地方自治の課題を理解する。	◎	◎	○	○議員立法と政府立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。 ○内閣総理大臣の権限について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○違憲審査会のあり方について、協働的に考察し適切に表現している。 ○裁判員制度について、多面的に考察し、適切に表現している。 ○都市と地方の格差について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○住民投票について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○地方議会の課題について、多面的に考察している。 ○地域社会の課題とその解決策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。
後期中間考査							
12-3	20	5. 政治参加と世論 第5章 国際政治の動向と課題 1. 国際社会における政治と法 2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍縮 5. 異なる人種・民族との共存	・各選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・人生における青年期の意義を理解する。 ・青年期の特徴を理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・パーソナリティの理論や青年期の発達課題を理解する。	○	◎	◎	○国政への民意の反映について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○市民の政治参加について多面的に考察し、適切に表現している。 ○政治参加の意義について、多面的に考察している。 ○国政への民意の反映について、協働的に考察し、適切に表現している。 ○市民の政治参加について、多面的に考察し、適切に表現している。 ○政治参加の意義について、多面的に考察している。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次	必修			
教科	科目	単位数	学級編成	担当者
数学	数学Ⅱ・数学B	4・2	2 クラス 3 展開 (習熟度別学習)	非守利栄子・後藤 和幸・星野 朋己 船水 裕貴・長瀬 肇・吉田 正和
教科書	新編 数学Ⅱ (数研出版) 新編数学B (数研出版)			
補助教材	3 TRIAL 完成ノート分冊 (数研出版)			
目標	科目 資質・能力	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (知識及び技能) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりするための技能を身に付ける。 (思考力、判断力、表現力等) 論理的・数学的に考察する力、図形や事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (学びに向かう力、人間性等) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
		自己開示力	課題発見力	思考力
評価の観点	能力・能	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の方法		各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	事象を論理的・数学的に表現し考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用したり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
		単元テスト、定期考査に小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。	単元テスト、定期考査に小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。	ワーク (3 TRIAL 完成ノート)、課題学習、長期休業中の課題への取組状況、日常的な学習活動、単元テストや定期考査に向けての取組状況および自己評価を加えて3段階A,B,Cで評価する。

年間計画		◎特に重視する ○重視する					
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	48	式と計算 (数学Ⅱ)	3次式の展開と因数分解	◎	○		3次式の公式を用いた展開や因数分解を理解する。
			二項定理	○	◎		二項定理を用いた展開や特定の項の係数の求め方を理解する。
			多項式の割り算	○	◎		多項式の割り算の方法について理解する。
			分数式とその計算	◎		○	分数式の約分、四則計算を行うことができる。
		等式・不等式の証明 (数学Ⅱ)	恒等式	○	◎	◎	恒等式の考えを理解する。
			等式の証明	○	◎		等式の証明方法を理解する。
		複素数と2次方程式の解 (数学Ⅱ)	不等式の証明	○	◎	◎	不等式の証明方法および相加平均と相乗平均の関係を理解する。
			複素数とその計算	◎	○	◎	数の範囲を複素数まで拡張することに興味を持ち理解する。
		高次方程式 (数学Ⅱ)	2次方程式の解	◎	○		2次方程式の解の公式と判別式に興味を持ち理解する。
			解と係数の関係	○		○	解と係数の関係に興味をもち、理解する。
		点と直線 (数学Ⅱ)	剰余の定理と因数定理	◎	○		剰余の定理、因数定理を理解する。
			高次方程式	◎	○		高次方程式を解くことができる。
直線上の点	◎		○		数直線上の2点間の距離、線分の内分点・外分点を理解する。		
平面上の点	○			◎	座標平面上の2点間の距離、内分点・外分点を理解する。		
6-8	36	円 (数学Ⅱ)	さまざまな直線の方程式を求めることができる。	○		◎	さまざまな直線の方程式を求めることができる。
			直線の関係	○		◎	2直線が平行になる場合と垂直になる場合について理解する。
			2直線の関係	◎	○		2直線が平行になる場合と垂直になる場合について理解する。
			円の方程式	◎		○	円の方程式を求めることができる。
		軌跡と領域 (数学Ⅱ)	円と直線	◎	○	◎	円と直線の位置関係について理解する。
			2つの円	○		◎	2つの円の位置関係を理解する。
		等差数列と等比数列 (数学B)	軌跡と方程式	◎	○		軌跡の方程式を理解し求めることができる。
			不等式の表す領域	◎	○		不等式が表す領域を理解し図示することができる。
			数列と一般項	○		◎	数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。
			等差数列	○	◎		等差数列について関心を深め、一般項を理解する。
		いろいろな数列 (数学B)	等差数列の和	◎	○		等差数列の初項から第n項までの和の求め方を理解する。
			等比数列	○	◎		等比数列について関心を深め、一般項を理解する。
等比数列の和	◎		○		等比数列の初項から第n項までの和の求め方を理解する。		
和の記号Σ	○		◎		自然数の累乗の和Σを用いて表すことができる。		
漸化式と数学的帰納法 (数学B)	階差数列	○	◎		階差数列や数列の和から一般項を求めることができる。		
	いろいろな数列の和	○	◎	◎	階差数列などの少し複雑な数列の一般項や和を求めることができる。		
前期期末考査			漸化式	◎	○	数列の漸化的定義について理解し、漸化式を扱うことができる。	
			数学的帰納法	◎	○	数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	
9-11	66	三角関数 (数学Ⅱ)	角の拡張	◎	○		一般角の概念を認識し、弧度法による角の表示について理解する。
			三角関数	◎	○		三角関数を一般角、弧度法により定義し理解する。
			三角関数のグラフ	◎		○	三角関数のグラフの特徴を理解してグラフをかくことができる。
			三角関数の性質	◎		○	三角関数の性質を理解する。
			三角関数を含む方程式・不等式	○	◎		三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。
		加法定理 (数学Ⅱ)	三角関数の加法定理を認識し、三角関数の値を求めることができる。	○	◎		三角関数の加法定理を認識し、三角関数の値を求めることができる。
			加法定理の応用	○	◎		2倍角の公式や三角関数の合成について理解し、応用することができる。
			指数関数	◎	○		指数の拡張や累乗根の意味を理解し、計算をすることができる。
		対数関数 (数学Ⅱ)	指数関数のグラフの特徴と性質を理解し、問題を解くことができる。	◎	○		指数関数のグラフの特徴と性質を理解し、問題を解くことができる。
			対数とその性質	◎		○	対数の定義や性質を理解し、簡単な式の値を求めることができる。
			対数関数	◎		○	対数関数の性質および、そのグラフの特徴について理解する。
		微分係数と導関数 (数学Ⅱ)	常用対数	○	◎		常用対数について理解を深めて応用できる。
微分係数	◎		○		微分係数を求めることができる。微分係数の図形的な意味を理解する。		
導関数とその計算	◎		○		簡単な多項式関数の導関数を計算することができる。		
12-3	60	積分法 (数学Ⅱ)	接線の方程式	◎	○		微分法を用いて、接線の方程式を求めることができる。
			関数の値の変化 (数学Ⅱ)	○	◎		導関数を用いて関数の極大・極小を調べ、グラフをかくことができる。
			関数の増減・グラフの応用	◎	○		微分法を用いて関数のグラフをかき、問題解決に応用できる。
			不定積分	○	◎	◎	微分法の逆演算として不定積分を理解し不定積分を求めることができる。
			定積分	○	◎	◎	定積分の定義を理解し、その計算ができる。
		確率分布 (数学B)	定積分と面積	○	◎	◎	定積分を計算して、面積を求めることができる。
			確率変数と確率分布	◎	○		確率変数について理解し、確率分布を求めることができる。
			確率変数の期待値と分散	○	◎		確率変数の期待値と分散について理解し、求めることができる。
			確率変数の和と積	○	◎		確率変数の和や積の期待値、分散を求めることができる。
			二項分布	○	◎	◎	二項分布を理解し、期待値、分散、標準偏差を求めることができる。
		統計的な推測 (数学B)	正規分布	○	◎		正規分布曲線の性質について理解し、確率を求めることができる。
			母集団と標本	◎	○		全数調査と標本調査、母平均や母標準偏差について理解している。
標本平均の分布	◎		○		標本平均の期待値と標準偏差を求めることができ、大数の法則を理解する。		
推定	○		◎	○	母平均の推定について理解し、信頼区間を求めることができる。		
後期期末考査			仮説検定	○	◎	仮説検定の手順を理解し、具体的な事例について考察できる。	
後期期末考査							
合計	210						

2 年次		選択22				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		物理	2	選択授業	高橋 賢司	
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		スタディノート物理（第一学習社）				
目標	科目	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能　＜習得＞		思考・判断・表現　＜活用＞		主体的に学習に取り組む態度　＜探究＞	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考查問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅱ章 波動	4 円運動と単振動・万有引力 1 正弦波 3 光	◎	◎	○	・ 単振動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。 ・ 正弦波の伝わり方と式での表し方について理解する。 ・ 光の伝わり方について理解する。 ・ 光のスペクトルや光の散乱について理解する。 ・ レンズと球面鏡によってできる像について、図と式を使って考えることができる。 ・ 光の回折と干渉について図と式を使って考えることができる。
6-8	12	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位	◎	◎	○	・ 気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・ 気体分子の圧力と気体分子の熱運動を理解する。 ・ 気体の内部エネルギーについて、熱力学の第1法則に関連付けて理解する。 ・ 気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を考えることができる。 ・ 静電気の種類と性質について理解する。 ・ クーロンの法則と電界について理解する。 ・ 電界と電位の関係を理解する。 ・ コンデンサーの性質を理解する。
前期期末考查							
9-11	22	第Ⅲ章 電気と磁気	2 電流 3 電流と磁場 4 電磁誘導と交流	◎	◎	○	・ オームの法則とジュール熱について理解する。 ・ 直流回路の性質を理解する。 ・ 半導体の性質とその利用について理解する。 ・ 磁気に関するクーロンの法則と、磁界と磁力線について理解する。 ・ 電流がつくる磁界の様子を理解する。 ・ 電流が磁界から受ける力について理解する。 ・ ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。 ・ 電磁誘導とその法則について理解する。 ・ ローレンツ力と誘導起電力、電磁誘導とエネルギーの保存について考えることができる。 ・ 自己誘導とコイルの性質について理解する。 ・ 交流について現象や法則を理解する。 ・ 電気振動と電磁波の性質について理解する。
後期中間考查							
12-3	20	第Ⅳ章 原子	1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○	・ 電子の電荷と質量について理解する。 ・ 光の粒子性について理解する。 ・ X線の性質について理解する。 ・ 粒子の波動性について理解する。 ・ 原子の構造及びスペクトルの関係について理解する。 ・ 原子核とその崩壊、放射線の関係を理解する。 ・ 原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ・ 素粒子の存在と宇宙について理解する。
後期期末考查							

合計 70

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		化学基礎	2	学級単位	松浦 孝志 ・ 岩谷 義久	
教科書		東京書籍 新編化学基礎				
補助教材		新課程 ニューアチーブ 化学基礎				
目標	科目	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		化学の特徴について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。		化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関り、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業の中での発言や発表		・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	1 編 1 章 2 章 2 編 1 章	化学とは何か 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 電子配置と周期表	◎ ◎	◎ ◎	◎	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づき、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 ・純物質と混合物の性質を理解し、混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。
6-8	12	2 編 2 章	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 化学結合と物質の分類	◎	◎		・イオン結合の形成について理解する。 ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。
前期期末考査							
9-11	22	3 編 1 章 2 章	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応の表し方 化学反応の表す量の関係 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和滴定	◎ ◎	◎	◎	・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質質量とその単位 mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 ・酸と塩基の性質について理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。
後期中間考査							
12-3	20	3 編 3 章 終章	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用 化学が拓く世界	◎	◎ ◎	◎	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついてることを理解する。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次	選択 2 2				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
理科	生物	2	選択授業	加藤友秋	
教科書	生物（数研出版）				
補助教材	リードLightノート生物（数研出版）				
目標	科目	・細胞を作っているタンパク質の構造や遺伝子、またそれによって引き起こされる光合成や呼吸といった生命現象の概念を把握する。 ・DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。		生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物 ・日常的な学習活動や実験観察への取組

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	○	◎	◎	・生命の誕生や生物の進化について、遺伝子の構造と変異に基づいて理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。 ・生物が進化の道筋をたどることによって系統に分類できることを理解する。人類の系統と進化についても理解する。
6-8	12	第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子	第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	◎	○	◎	・細胞を構成する物質について理解する。 ・タンパク質の構造を1次構造から4次構造まで理解する。 ・タンパク質が、酵素として機能する上での立体構造の重要性を理解する。 ・細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。 ・生体膜や細胞骨格については、その構造と構成タンパク質について理解する。 ・生体膜上で物質輸送や情報伝達に関わるタンパク質の、はたらきと仕組みについて理解する。
前期期末考査							
9-11	22	第3章 代謝	第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成	◎	○	◎	・「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。
後期中間考査							
12-3	20	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生	第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	○	◎	◎	・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・遺伝子の発現について、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程・形態形成のしくみを理解する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーについて学習し、その原理と応用例を理解する。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	2	2 クラス 3 展開		北辻・稲村・水谷	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	現代高等保健体育ノート					
目標	科目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	体づくり運動 選択Ⅰ 陸上競技 現代的なリズムのダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 短距離走 仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標タイムを設定し、記録の向上を目指す。 ・ダンスの特性やいろいろなリズムと動きなどを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
6-9	24	選択Ⅱ	バドミントン サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につけ、実践する。
10-11	18	選択Ⅲ	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。
12-3	12	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 運動・スポーツの学び方	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができるよう。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。 ・何をどのように取り組みればよいのか、健康・安全をどのように確保するのかなどの、運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
合計	70						

2 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	保健	1	学級単位		対馬	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	現代高等保健体育ノート					
目標	科目	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、主体的に学習に取り組もうとする。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト		・ノート・課題の提出状況 ・授業観察 ・発表内容		・発言、発表態度 ・授業観察 ・協力体制	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	8	3 生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶	◎	◎	○	思春期における体と心の大きな変化について理解を深めるとともに、男女間の性意識の違いを知り、性的関心の高まりとともに誤った情報や性衝動のままに行動して妊娠や性感染症などの問題が起きないように、性に関する適切な意志決定・行動選択ができるようにする。
6-9	10	3 生涯を通じる健康	6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	◎	◎	○	人生の大きな出来事の一つである結婚とその後の結婚生活をよりよく過ごすためにはどうしたらよいか、また新しい命を育む上で重要となる妊娠・出産期を健康的に過ごすにはどのような事項に注意したらよいかを学び、生涯のパートナーとの相互理解をはかることの重要性を理解する。
10-11	10	4 健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康に関わる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	◎	◎	○	・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染についてそれぞれ理解を深め、地球規模で起こっている環境問題についてどのようにしてかかわっていくべきなのか、人々の健康面の問題と合わせて考えられるようにする。 ・私たちの生活と直結しているごみ処理・上下水道整備・し尿処理といった環境衛生活動と、食品の安全を守る食品衛生活動についてそのしくみと具体的な対策について学ぶ。
12-3	7	4 健康を支える環境づくり	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	◎	◎	○	・わが国における保健・医療制度について理解し、行政や医療機関で展開されているさまざまな保健・医療サービスを活用する方法を身につける。 ・医薬品の種類と正しい使い方について理解する。また、医薬品がもたらす作用を理解した上で、薬害等の問題が起きないように安全対策がとられていることを学ぶ。 ・私たちの健康づくりのために、国の枠を越えた世界規模の保健活動や対策がとられていることを知る。
合計	35						

2 年次	選択 2 2				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術	音楽Ⅱ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書	音楽Ⅱ Tutti+				
補助教材	基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。	イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法	・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験	・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験・鑑賞	・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・歌唱	・オリエンテーション ・発声練習 ・歌唱（コンコーネ） ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・発声の基本技能を身に付け積極的に歌唱活動を行う。 ・音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダ（2重奏） ・器楽合奏 ・声の世界 ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・他者との調和を意識したり、合奏の特徴を生かしながら、イメージを持って表現を創意工夫する。
前期期末考査							
9-11	22	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（合奏） ・ヴォイスアンサンブル ・舞台芸術の世界（歌唱） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞 ・創作 ・発表	・ギター（弾き語り） ・舞台芸術の世界 ・ドラム ・発表	○	○	◎	・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。 ・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次		選択 2 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
		書道Ⅱ	2	選択授業	天満谷 貴之	
教科書		教育図書 書道Ⅱ				
補助教材		なし				
目標	科目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。 ・書の伝統や文化に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を深く捉えることができる。		主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書の伝統と文化を踏まえて、心豊かな生活や社会を創造できる態度を養うことができる。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書 1 篆刻	古典（歴史の変遷）を探究 泰山刻石と金文 姓名印を刻そう	◎ ◎	◎	○	○書道Ⅱで目指す内容を整理し、1年間の流れ・評価等について確認 <知識・技能> ○篆書の歴史を理解し、日常との関連を図りながら篆書・篆刻の技能について理解し、学ぶことができる。 ○主体的にグループワーク、ICTを効果的に活用し、知識・技能習得を目指す。 <主体的に学習に取り組む態度> ○文字の成立を正しく理解し、書の伝統と文化について考察し、日常生活と関連していることを探究し理解を深める。
6-8	12	漢字の書 2	行書と楷書の違いと美 日本の書を学ぶ	◎	○	◎	<知識・技能> ○楷書・行書の用筆法を正しく理解し、古典の特徴を活かしながら臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシート・ICT機器を効果的に活用させ、自国の歴史的背景と関連させながら、文字文化の価値について、思考し表現することができる。
前期期末考査							
9-11	22	漢字仮名交じりの書	詩人の言葉を書く 生活の中に生きる書 手紙を書く	◎	○ ◎	○	<知識・技能> ○俳句・短歌等を題材に、自己の表現意図に基づいて表現することができる。 ○日常生活場面を想定し、文字が生きた場所・生かされる場所などを考察し、感性を働かせながら表現活動することができる。 <思考・判断・表現> ○日本の文化を様々な角度から探究し、日本の文字文化を支える「手紙」のよさや、価値を理解し感受することができる。
後期中間考査							
12-3	20	仮名の書	古筆を学ぶ	◎	◎		<知識・技能> ○荒野切れ・和漢朗詠集を通して、書き手を想像しながら細部まで緻密に臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○習得した用筆法を活用し、原寸サイズでの境地を体験し、仮名のよさや価値について味わうことができる。
後期期末考査							
合計	70						

2 年次	選択 2 2				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術	美術Ⅱ	2	選択授業	安田 祐子	
教科書	高校生の美術 2 (日本文教出版)				
補助教材	なし				
目標	科目	美術の創造的な活動を通じて、表現と鑑賞の能力を伸ばす。また制作において必要な技術を身につけ表現の幅を広げる。美術を愛好する心情を育てるとともに、生涯にわたり美術を学び親しむための力を身に付ける。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	表現の方法・違いを理解し、自身の好む新たな表現またその過程を考え、再現するために必要な技術を習得する。基本的な画材や道具の用い方を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。模倣や繰り返しを避け、これまでの学習をもとに自由で新たな表現方法に挑戦している。
評価の方法	・練習課題 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・ 鑑賞レポート ・学習活動への参加状況や態度

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・練習 ・平面構成	・オリエンテーション ・アクリル絵の具の練習課題 ・色彩と構成	○	◎	◎	○色彩について基本的な知識の理解を深める。 ○画材、用具についての特徴を確認し深める。 ○与えられた要素を効果的に使い、多くの構成パターンを検討する。 ○自由で大胆な構成を行う。
6-8	12	・平面構成 ・油絵	・着彩 ・鑑賞 (名画から学ぶ) ・木炭による名画の模写	○	○	◎	○色彩と構成の理解を深め、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、美しく着色できる技能を身につける。 ○用具の正しい用い方を身につける。 ○作者やテーマ、描かれた背景について学び、原画を正確に模写する。
(前期期末考査)							
9-11	22	・油絵 ・銅板画	・油絵具による着彩 ・相互鑑賞 ・テーマと表現するための視覚的要素について	◎	◎	◎	○混色技法について理解を深め、思い通りの色を作り着彩する。 ○テーマを意識し、表現の仕方を探る。 ○対象を本物そっくりに描くだけではなく、感じ取ったことや考えたことなどを自分の表現方法を創意工夫して表すことができる。 ○テーマを表現するために検討した要素について、視覚的に表現することができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	・銅板画	・構成と鉛筆による下描き ・彫り ・刷り	○	◎	◎	○版画技法が社会の中でどのように生きてきたのかを知り、表現についての理解を深める。 ○用具を正しく使い、的確に線を彫れるようになる。 ○版や紙の丁寧な下準備がもたらす効果について学ぶ。 ○版画用インクの混色を学び、色による作品の印象の違いを鑑賞する。
(後期期末考査)							

合計 70

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語コミュニケーションⅡ	4	2 クラス 3 展開	松尾 啓史 ・ 渡邊 大地 ・ 柴田 ゆうか	
教科書		MY WAY English Communication II				
補助教材		マイウェイ総合英語 ・ 必修英単語LEAP ・ abceed				
目標	科目	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぶとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	[L]本文を聞き取る技能を身に付けている。 [R]文法に留意して、内容を読み取る技能を身に付けている。 [R]文章を読み取るために必要となる文法に関する事項や表現の意味や働きを理解している。 [Sや]論理性に注意して円滑に意見を交換する技能を身に付けている。 [S発]グループで話し合った内容を、論理性に注意して報告する技能を身に付けている。 [W]論理性に注意して既習文法などを用いて簡潔に書いて伝える技能を身に付けている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えている。 [R]本文を読み取り、概要や要点を把握している。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡潔に書いて伝えている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を、主体的、自律的に聞き取って捉えようとしている。 [R]本文を主体的、自律的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしていたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に情報や考えを発表して伝えようとしている。 [W]本文を読んで得られた情報などを参考にしながら、主体的、自律的に簡潔に書いて伝えようとしている。	
評価の方法	・ポートフォリオ ・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・ポートフォリオ ・パフォーマンステスト	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	L1 Dances Around the World L2 Katsura Sunshine—Making the World Laugh	SV0 (O=that/what節) / SV0 (O=if/whether節) / SV0102 (O2=if/that/what節) 形式主語のit / 形式目的語のit① / 形式目的語のit②	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り概要や要点を把握することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、与えられたフォーマットを参考に、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手のやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡単な理由を添えて、簡潔に書いて伝えることができる。
6-8	24	L3 Living with Nature—Takita Asuka's Journey L4 Sesame Street	現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了形 / 過去完了進行形 SVOC (V=知覚動詞、C=動詞の原形) / SVOC (V=知覚動詞、C=過去分詞) / SVOC (V=使役動詞 have/make、C=過去分詞) / help+O+動詞の原形	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手のやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
		前期期末考査					
9-11	44	L5 From Landmines to Herbs L6 Murals—The Power of Public Art L7 “Englishes” in the World	関係代名詞 (主格) / 前置詞 + 関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞の非制限用法 助動詞 / 助動詞の過去形を使った表現 / 助動詞+have+過去分詞 / 完了不定詞 分詞構文 / 受け身の分詞構文 / 完了形の分詞構文 / 付帯状況with	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、話題を発展させて、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手のやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して話題を広げて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
		後期中間考査					
12-3	40	L8 Deepika Kurup—The Science Behind Clean Water L9 The World's Poorest President L10 Living in an E-Society—The Pros and Cons	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter+疑問詞 同格を表すthat節 / 強調構文 / 倒置 / 省略	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、相手をほめる表現のやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して自分の意見を理由を複数添えて書いて伝えることができる。
		後期期末考査					

2 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		論理・表現 II	2	HR単位	松尾 啓史・渡邊 大地・柴田 ゆうか・森田 友江	
教科書		MY WAY Logic and Expression II				
補助教材		MY WAY 総合英語 ・ 必修英単語LEAP				
目標	科目	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。				
		一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え、立場や状況が異なる相手と交渉することができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、詳しく話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、詳しく書いて伝えることができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。		知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。	
評価の方法	・ポートフォリオ ・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・ポートフォリオ ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・振り返りシート ・授業での活動の取組 ・提出課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Lesson 1 I Love My Country! Lesson 2 The New Wave of Sports	現在完了形、過去完了形 未来を表す表現 【やりとり】【書く】 助動詞表現 (used to, should など) (助動詞+have+過去分詞)、 (be動詞+to不定詞) 【やりとり】【発表】	○	○	◎	・これまでの経験や自分の好きな場所などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、詳しく書いたりすることなどができる。 ・週末の予定や最新のものなどについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、詳しく話して紹介したりすることなどができる。
6-8	12	Lesson 3 The Future of Technology Lesson 4 Rediscover Kabuki	受動態 不定詞① 【やりとり】【書く】 不定詞② 知識動詞、使役動詞 【やりとり】【発表】	○	◎	○	・印象深かった授業や贈り物などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、詳しく書いたりすることなどができる。 ・日本の文化について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、詳しく発表したりすることなどができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	Lesson 5 Will Our Lives Change with AI? Lesson 6 Experience Madagascar's Wildlife Lesson 7 Can We Go and Live on Mars?	動名詞 分詞構文、(with+0+分詞) 【やりとり】【書く】 比較① 比較② 【やりとり】【発表】 関係代名詞、関係副詞① 関係代名詞、関係副詞② 【やりとり】【書く】	○	○	◎	・いろいろな科学技術や将来の社会の状況と職業などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いたりすることなどができる。 ・ものの大きさや世界や日本で有名な場所などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えたりすることなどができる。 ・火星に関連することなどについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いたりすることなどができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	Lesson 8 Language and Society Lesson 9 Send Our Love to the World Lesson 10 Follow in Our Hero's Footsteps	仮定法① 仮定法② 【やりとり】【発表】 否定の表現 代名詞を使った表現 【やりとり】【書く】 無生物主語構文 thatを使った表現 【やりとり】【発表】	○	◎	○	・外国に関連することや「もし○○がなかったら」というテーマなどについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合ったり、それらを整理し、詳しく発表したりすることなどができる。 ・悩み事や社会問題などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合ったり、それらを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いたりすることなどができる。 ・調べ学習で調べたことがらや自分の関心のある人物などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合ったり、それらを整理し、詳しく紹介したりすることなどができる。
(後期期末考査)							

2 年次	必修				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
家庭	家庭基礎	2	学級単位	坂 上 真 子	
教科書	クリエイティブ・リビング 「家庭基礎」で生活をつくらう (大修館書店)				
補助教材	なし				
目標	科目	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付けている。		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価の方法		・定期考査 ・小テスト ・実習における達成度 ・作品評価	・発表や発言の状況 ・グループ評価・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み	・授業中の取り組み状況 ・課題への取り組み状況 ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	生活のマネジメント 青年期の課題と自立 持続可能な社会をつくる 経済生活のマネジメント	意思決定を重ねてつくる人生 子どもからおとなへ ライフスタイル再考 生活を営むためのお金 経済のしくみを知ろう 18歳で変わる消費生活 消費者の自立を支援する	○ ○ ◎	○ ○	○ ○	○意思決定のプロセスを意図的に実行することで、長期的に展望のある選択ができることを理解することができる。 ○生涯発達の見点で青年期の課題を理解し、協力して家族の一員としての役割を果たし、家族を築くことの重要性和家庭・地域の生活の充実向上について考えることができる。 ○自立した消費者として生活を営むための、生活情報の活用や経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。
6-8	12	家族・家庭生活のマネジメント 高齢期の生活のマネジメント 共生社会をつくる	家族って何だろう 法律からみる家族・家庭 人生100年時代の高齢期 ともに生き、社会をつくる	◎ ○ ○	○ ○ ◎	○ ◎ ○	○家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて考えることができる。 ○家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考えることができる。 ○高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とのかかわろうとしている。 ○高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 ○共生社会の理念や社会保障制度について理解し、自分の生活や地域、社会の課題解決について考えることができる。
前期期末考査							
9-11	22	衣生活のマネジメント 住生活のマネジメント 子どもの生活と子育てのマネジメント	快適な衣生活の条件 長持ちさせる手入れ 安全に安心して暮らす 子どもの世界を知る 子どものいる暮らし	◎ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。 ○住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。 ○子どもの成長・発達を知り、子育ての意義について理解することができる。 ○子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解することができる。
後期中間考査							
12-3	20	生活をデザインする 食生活のマネジメント	ホームプロジェクトとスクールプロジェクト 栄養バランスのよい食事 食品を安全に取り扱う 調理のワザを身に付ける	◎	○	○ ○ ○	○生活から見えてくる課題を探究ことができ、それに対する具体的な解決方法を考え、改善活動をレポートにまとめ、発表することができる。 ○健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生、食文化などの基礎的知識と技術を習得することができる。
後期期末考査							
合計	70						